

横浜市中央卸売市場の現状について

平成23年 5月25日

横浜市中央卸売市場

目 次

1	横浜市中央卸売市場の概要	1
2	横浜市中央卸売市場の取扱高	
	(1) 部別取扱高推移	3
	(2) 全国主要都市との比較	5
3	中央卸売市場（本場・南部）の再編・機能強化について	6
4	横浜中央卸売市場の東日本大震災の影響等について	7

[資料]

①	青果部	：市場別・種別取扱高推移	9
②	水産物部	：市場別・種別取扱高推移	11
③	鳥卵部	：種別取扱高推移	13
④	花き部	：種別取扱高推移	14
⑤	食肉部	：種別取扱高推移	15

1 横浜市中央卸売市場の概要

(平成23年5月1日現在)

市場名	本場	南部市場	食肉市場
開設年月日	昭和6年2月11日	昭和48年11月8日	昭和34年11月5日
取扱品目	青果・水産物・鳥卵	青果・水産物・花き	食肉
敷地面積	106,211㎡	168,227㎡	42,600㎡
建 物 (建設時期)	延べ床面積 131,789㎡ 青果棟：昭和60～平成4年 水産棟：昭和55～61年 【主な施設】 青果棟 47,342㎡ 水産棟 50,282㎡ 関連棟 6,992㎡ 第1冷蔵庫棟 5,780㎡ 第2冷蔵庫棟 3,602㎡	延べ床面積 104,783㎡ 青果・水産・花き棟： 昭和46～48年 横浜フレッシュセンター： 平成17～19年 【主な施設】 青果棟 19,358㎡ 水産棟 14,615㎡ 花き棟 2,453㎡ 関連商品売場棟 8,925㎡ 冷蔵庫棟 10,304㎡ 横浜フレッシュセンター 17,559㎡	延べ床面積 22,530㎡ 本館棟：昭和63～平成元年 仲卸棟：平成6～7年 【主な施設】 冷蔵室 3,548㎡ 解体室 1,498㎡ 内臓処理室 582㎡ けい留所 1,832㎡
	卸売業者	青果部 2 水産物部 2 鳥卵部 1	青果部 2 水産物部 2 花き部 2
仲卸業者	青果部 26 水産物部 76	青果部 11 水産物部 26 花き部 4	食肉部 4
売買参加者	青果部 603 水産物部 18 鳥卵部 662	青果部 358 水産物部 11 花き部 481	食肉部 176
関連事業者	47	56	2

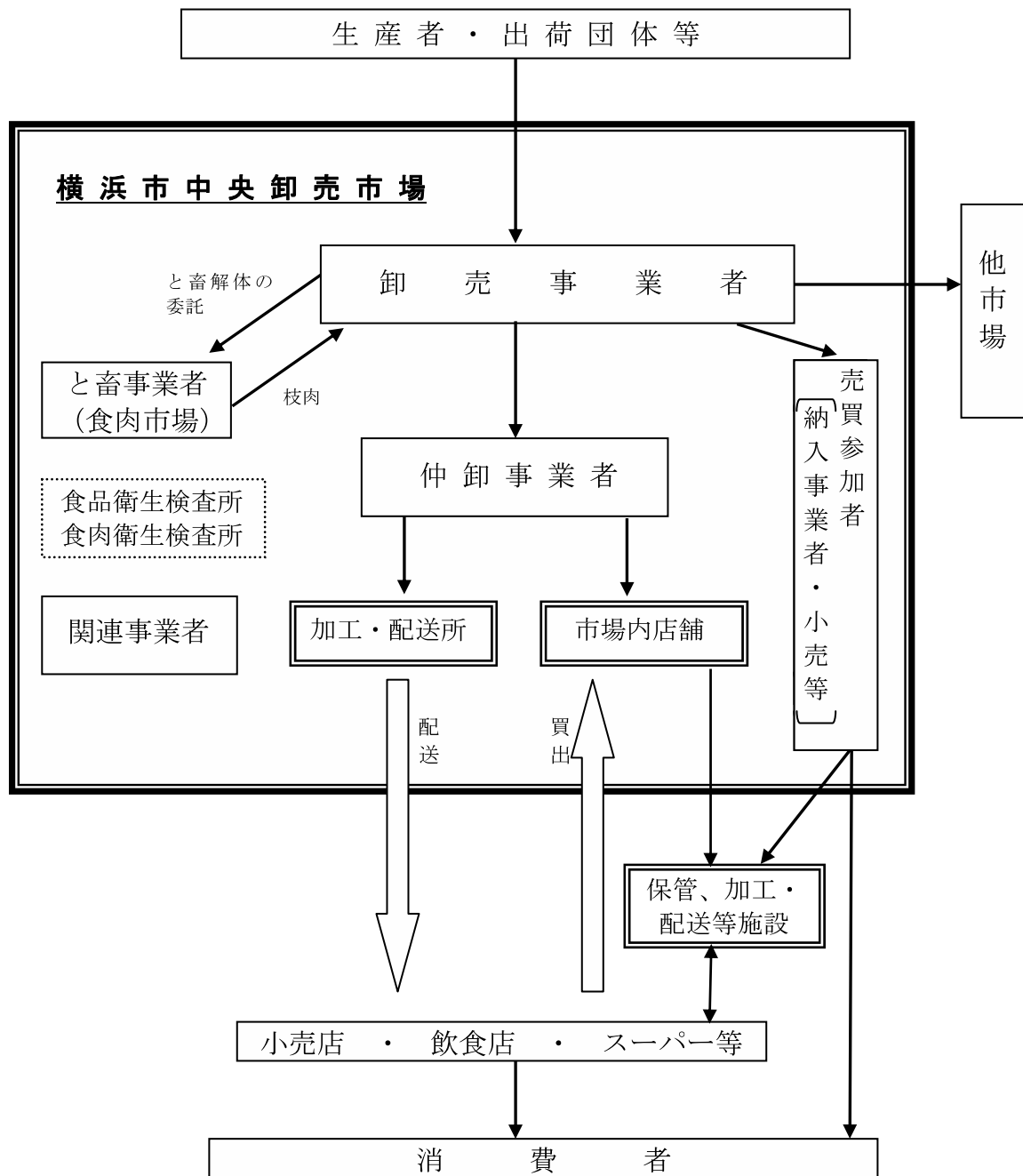
◎ 市場の沿革

横浜市では、昭和6年2月、神奈川区に、全国で3番目、東日本では最初の中央卸売市場を開設いたしました。

昭和34年11月には肉類を専門に扱う食肉市場を鶴見区に開設し、さらに人口増加による本市市場に対するニーズの増大を背景に、昭和48年11月、金沢区に南部市場を開設いたしました。

本市中央卸売市場は、卸売市場法及び横浜市中心卸売市場業務条例に基づき開設・運営しており、公正かつ効率的な取引のもとに、市民の日常生活に欠かせない安全で安心な生鮮食料品等の安定供給に努めております。

◎ 流通形態



◎ 卸売事業者

各地の生産者・出荷団体等から集荷した生鮮食料品等を仲卸業者や売買参加者に販売します。

◎ 仲卸事業者

卸売業者から買い受けた品物を仕分け、市場内の店舗で小売店等に販売するとともに、スーパーなどに向けて、カットやパック詰めなどの加工ならびに配送を行います。

◎ 売買参加者

卸売業者から、直接買い受けることのできる納入専門業者、小売業者等です。

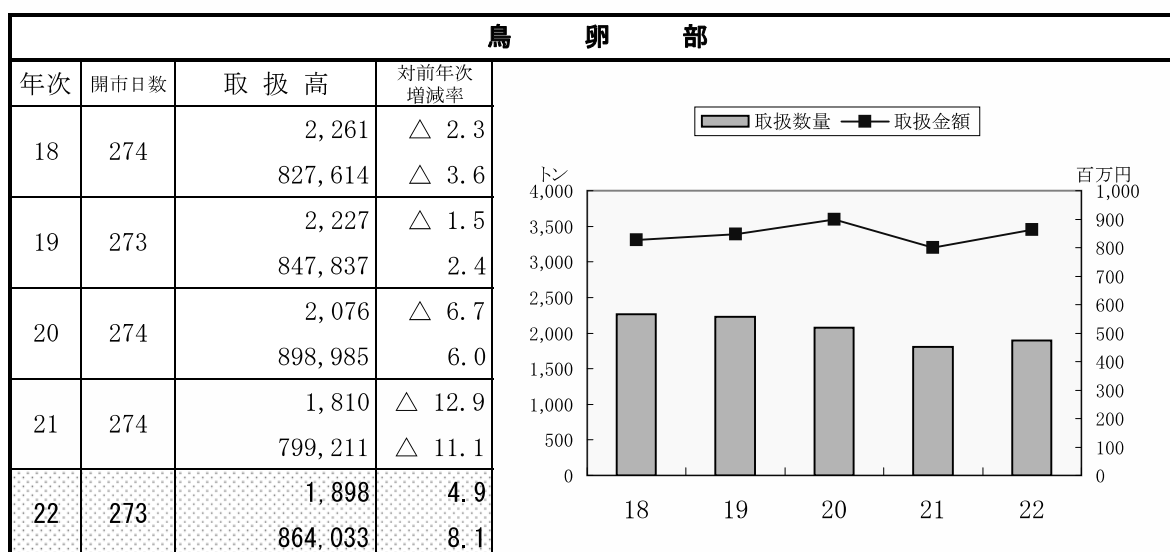
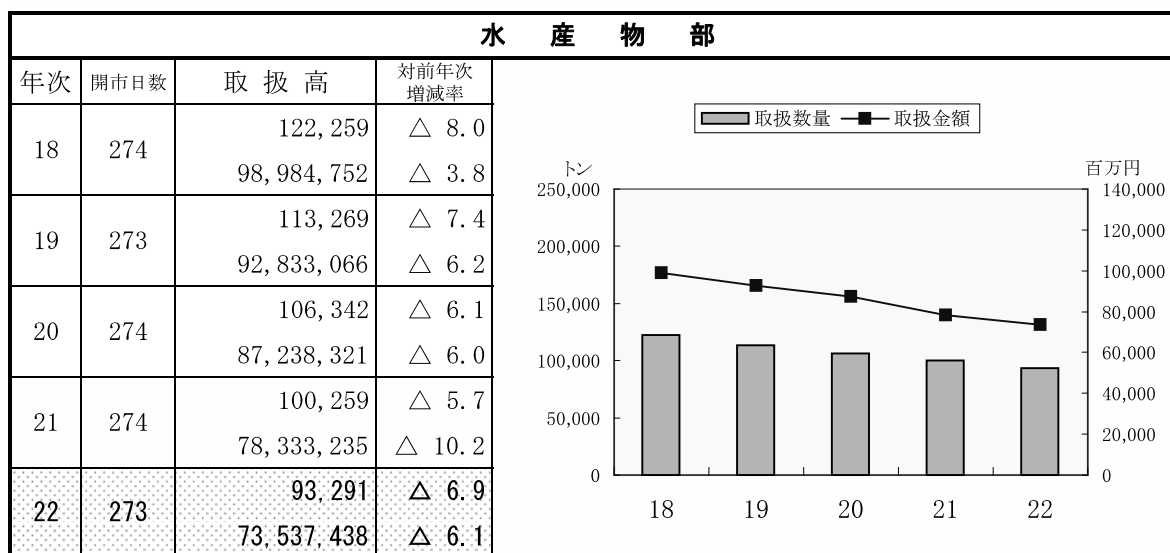
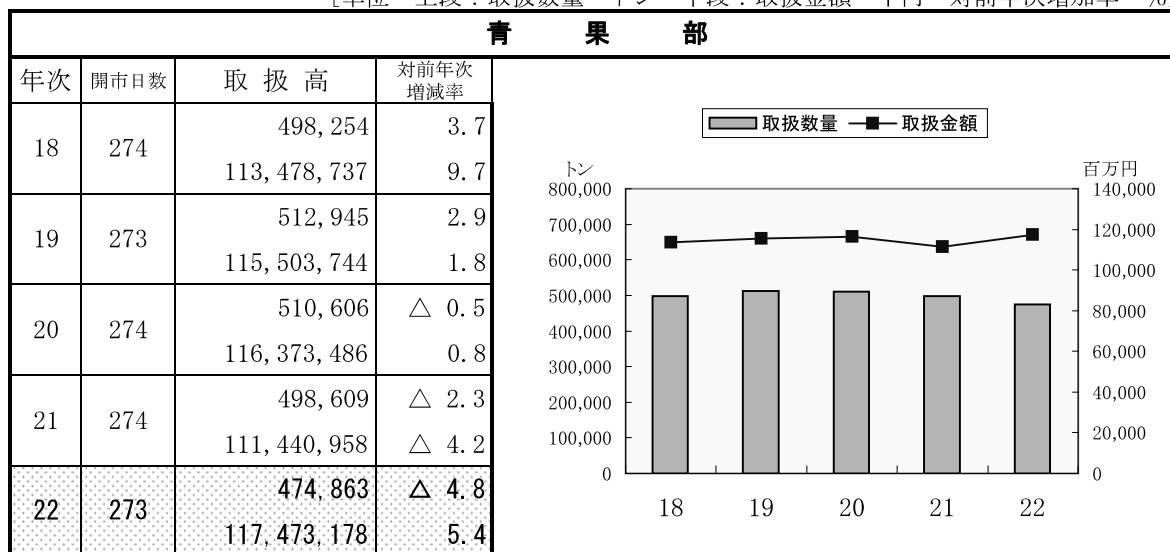
◎ 関連事業者

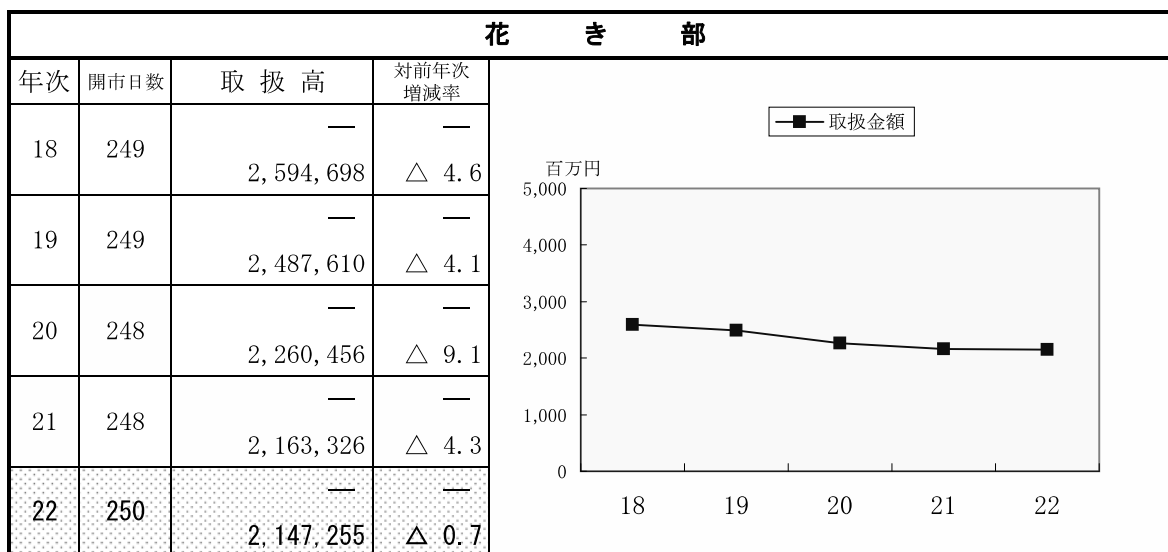
市場利用者のために運送業、(冷蔵)倉庫業、飲食店、金融業等の業務を市場内で行っています。

2 横浜市中心卸売市場の取扱高

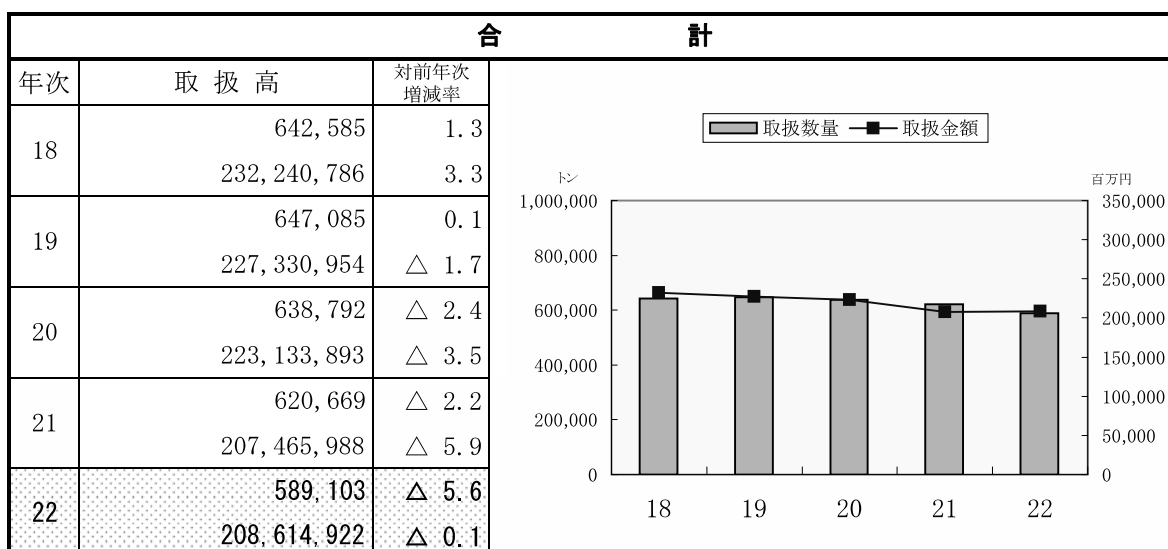
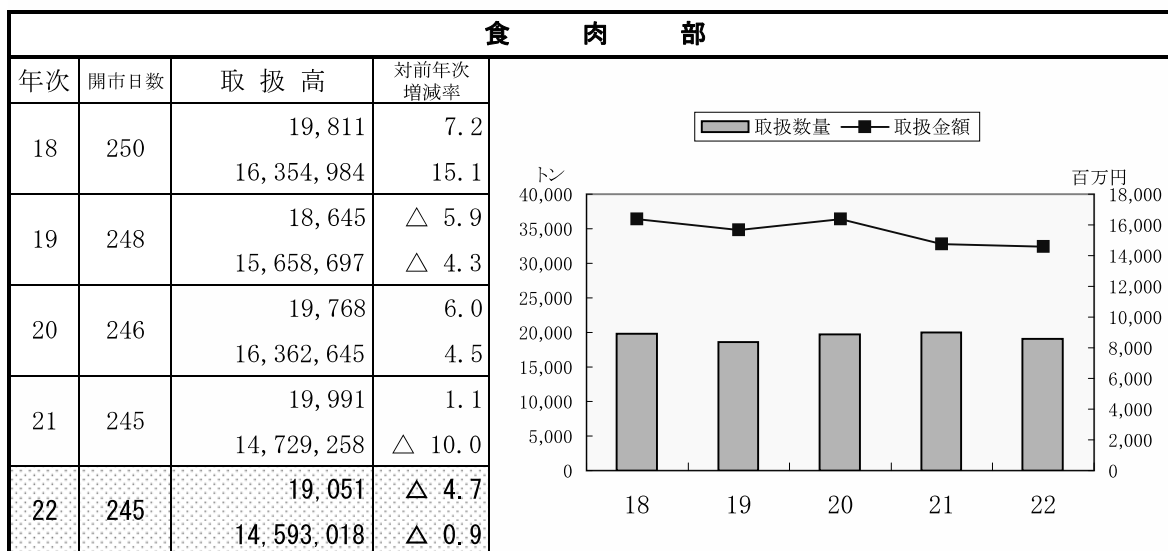
(1) 部別取扱高推移

[単位 上段：取扱数量＝トン・下段：取扱金額＝千円 対前年次増加率＝%]





(注) 「花き部」では、切花(単位:本)、鉢物(単位:鉢)等、取扱品により数量単位が異なるため、取扱金額のみ表示しています。



(注) 取扱数量に「花き」は含んでいません。

(2) 全国主要都市との比較

平成22年次における全国主要都市の取扱金額を比較しますと、青果（表1）は全国で東京都、大阪市、名古屋市に次いで第4位となっています。

また、水産物（表2）は第5位、花き（表3）は第6位、食肉（表4）は第5位となっています。

(表1)

青果部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	536,059,786
2	大阪市	177,847,348
3	名古屋市	133,818,135
4	横浜市	117,473,178
5	京都市	71,362,256
6	札幌市	62,595,805
7	福岡市	58,184,565
8	広島市	50,292,793
9	仙台市	48,358,191
10	神戸市	38,789,263

(表2)

水産物部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	464,035,688
2	大阪市	172,043,550
3	名古屋市	132,958,771
4	札幌市	96,546,869
5	横浜市	73,537,438
6	仙台市	70,174,029
7	神戸市	65,850,173
8	福岡市	51,461,801
9	京都市	45,190,865
10	広島市	33,918,241

(表3)

花き部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	89,451,706
2	仙台市	10,144,820
3	広島市	6,667,547
4	神戸市	3,524,313
5	川崎市	3,011,125
6	横浜市	2,147,255

(表4)

食肉部		
順位	都市名	取扱金額（千円）
1	東京都	97,131,414
2	大阪市	25,685,091
3	仙台市	17,491,611
4	名古屋市	17,134,312
5	横浜市	14,593,018
6	福岡市	13,326,419
7	神戸市	12,600,630
8	さいたま市	8,705,807
9	京都市	7,207,603
10	広島市	5,218,499

【参考】 全国の中央卸売市場数
(平成23年4月1日現在)

市場数	
中央卸売市場	72 (44都市)
うち 青果	58 (43都市)
水産物	44 (38都市)
花き	21 (17都市)
食肉	10 (10都市)

3 中央卸売市場(本場・南部)の再編・機能強化について

(1) 基本方針

昨年7月に、市場流通の活性化と市場関係事業者の一層の発展を目指すため、

- ①本場を中央卸売市場として横浜市が引続き開設・運営する
- ②南部市場は中央卸売市場としては廃止し、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用する

という横浜市中央卸売市場の再編・機能強化に関する基本方針を決定しました。

部 門	本 場	南 部
青 果 部 水産物部	<p style="text-align: center;">中 央 卸 売 市 場</p> <p style="text-align: center;">外気遮断・温度管理型売場、 加工場等の整備実施</p> <p style="text-align: center;">(本場に花き部はなし)</p>	本場を補完する加工・配送，流通の場とします。
鳥 卵 部		—
花 き 部		商圏（市内南部及び三浦半島地区）特性を踏まえて、民営地方卸売市場（または民営花き流通センター）とします。
関連事業		青果、水産物、花き部門の支援的な役割とともに、消費者等にかかれた業態にします。

(2) 今後の取組（スケジュール）

基本方針に基づき、現在、部門ごとに検討・協議を進めていますが、今後は、進捗状況に応じて適宜、部門横断的な調整を行ないながら進めていきます。

平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本場、南部の利用計画検討 ・事業者の経営基盤強化・支援策の検討等
平成24年度 ～ 平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本場・南部間の事業者の移動 ・施設整備（設計・工事） ・法令手続き、条例改正等
平成26年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・再編・機能強化事業完了

4 横浜市中心卸売市場の東日本大震災の影響等について

(1) 入荷量・卸売価格への影響

ア 青果部

放射性物質の影響により、東北、関東の5県に出荷制限の指示が出された産品があったものの、入荷量は福島県を除いて大きな影響はありませんでした。しかしながら、風評による被害などで卸売価格は下落しています。横浜市場のこれら5県からの入荷量は全体の約3割を占めており、今後は作付けの遅れや生産意欲の低下による品薄が懸念されます。

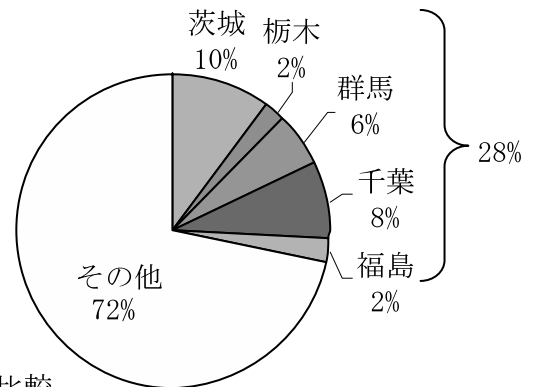
青果部取扱高推移（指数※）

産地	3月		4月	
	数量	単価	数量	単価
千葉県	98	96	120	65
茨城県	92	80	98	56
栃木県	124	79	111	85
群馬県	109	71	105	69
福島県	51	94	55	73
市場全体	98	95	101	86

出荷制限の指示があった県

※過去2年間の同月の平均値を100とした比較

平成22年青果部取扱数量割合



イ 水産物部

地震により漁港、漁具、市場施設が壊滅的な被害を受けた、岩手、宮城、福島の3県からの入荷量は激減しました。また、風評などの影響により福島県、茨城県、千葉県などの産品を中心に卸売価格が下落しています。これらの被災県からの横浜市場の入荷量は全体の2割強で、水産関連施設の復旧、復興に時間を要することから、今後も入荷量への影響は続くと考えられます。

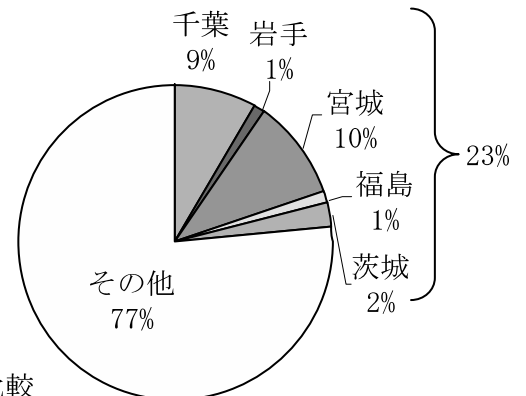
水産物部取扱高推移（指数※）

産地	3月		4月	
	数量	単価	数量	単価
岩手県	40	107	16	73
宮城県	39	110	16	74
福島県	15	114	15	38
茨城県	63	106	62	47
千葉県	97	99	92	57
市場全体	83	100	85	104

水産関連施設等に大きな被害があった県

※過去2年間の同月の平均値を100とした比較

平成22年水産物部取扱数量割合



ウ その他の部

花き部では、時期的に被災地からの入荷は少なく、放射性物質の影響もほとんどありませんでしたが、卒業、異動、春休みの時期にイベントの中止や自粛ムードが広がったことなどにより、3月の売上高は例年の7割程度まで落ち込みました。しかし4月に入り9割程度まで回復しています。

食肉部では大きな影響はありませんでしたが、福島県産の牛（横浜市場の入荷量の約2割を占めています）については、風評被害と思われる影響により、卸売価格が他県産より2割ほど低くなっています。

(2) 市場での取組

市場の事業者とともに、次のような取組を行なっています。

- ア 生産地、出荷地での放射性物質の影響検査の結果や、政府による出荷制限の指示・解除等の情報を、迅速かつ的確に把握し、「暫定基準値」を超える製品を取引しない
- イ 上記情報を卸売場やホームページなどで知らせ、風評による買い控えなどの防止に努める
- ウ 被災された生産者や出荷者の支援活動に取り組む
 - ・市場事業者による義援金の募集と自らの寄付
 - ・市内に避難して来られた方々への支援物資の募集、提供
 - ・被災地等の出荷団体に呼びかけ、「安全」野菜紹介フェアを実施等

今後も風評被害を払拭し、安全な生鮮食料品が適正価格で円滑に流通するよう、開設者、事業者、生産者、出荷者が連携した取組を行います。また開設者として、売上高の減少等影響を受けている市場事業者の経営支援に努めます。

(3) 市場施設の被害

ア 本場冷蔵庫棟周辺の地盤沈下

舗装路盤の陥没や冷蔵庫棟との段差、及び受水槽壁面の歪みや漏水が発生しました。仮補修を実施しましたが、平成23年度中央卸売市場費会計補正予算案で本工事費を計上しています。

イ 本場市場大橋の一部損傷

市場大橋のJR貨物線上部道路接合部が損傷しました。現在、通行止めとし、専門業者による損傷状況の詳細調査を実施しています。

※東京電力計画停電の期間

3月14日から4月8日まで（3月29日以降は実施されず）。

※出荷制限の経緯

3月21日に福島県、茨城県、栃木県、群馬県の各県全域を対象にホンレンソウ、カキナの出荷制限が始まり、4月7日まで対象地域、品目が拡大しましたが、4月8日以降解除も始まり縮小されています。

[資料]

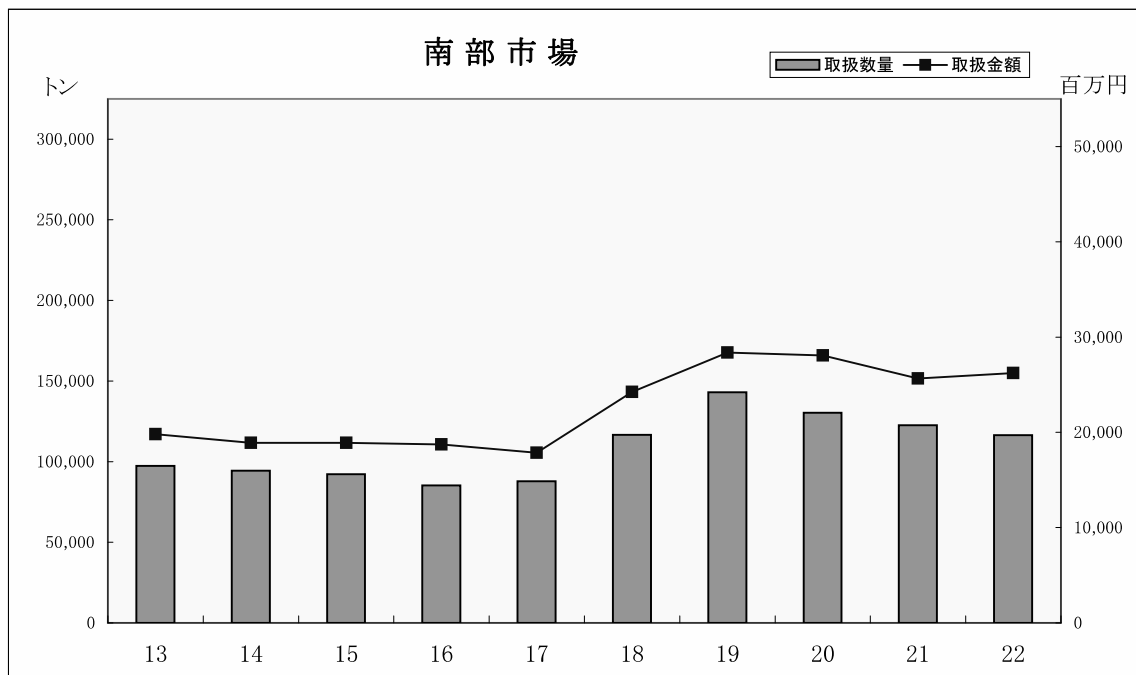
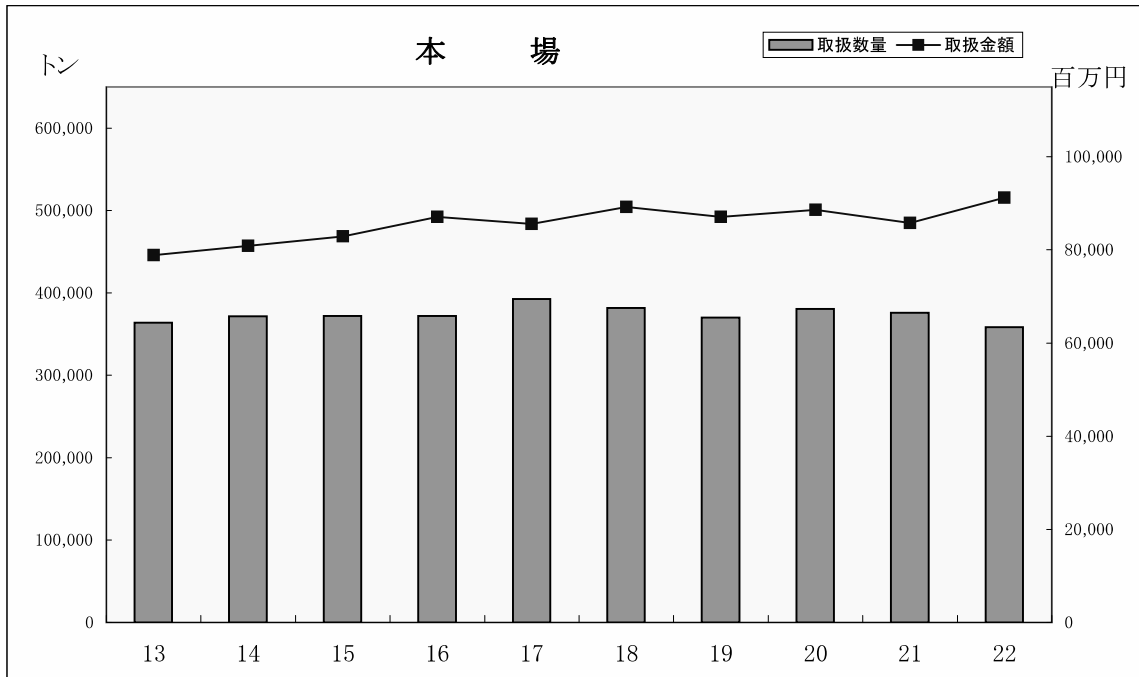
① 青果部：市場別・種別取扱高推移

[単位 上段：取扱数量=トン・下段：取扱金額=千円 対前年次増加率=%]

市場	年次	野菜		果実		つけ物及び加工品		計	
		取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率
本場	18	278,638	△ 0.4	91,618	△ 9.8	11,282	△ 0.5	381,538	△ 2.8
		60,755,384	6.4	25,835,502	△ 0.0	2,649,294	△ 0.3	89,240,181	4.3
	19	271,664	△ 2.5	87,883	△ 4.1	10,319	△ 8.5	369,866	△ 3.1
		58,711,098	△ 3.4	25,956,268	0.5	2,469,024	△ 6.8	87,136,390	△ 2.4
	20	279,719	3.0	90,436	2.9	10,192	△ 1.2	380,347	2.8
		61,439,990	4.6	24,328,582	△ 6.3	2,518,472	2.0	88,287,045	1.3
21	277,223	△ 0.9	89,223	△ 1.3	9,612	△ 5.7	376,058	△ 1.1	
	60,679,307	△ 1.2	22,733,960	△ 6.6	2,390,011	△ 5.1	85,803,278	△ 2.8	
22	268,094	△ 3.3	81,213	△ 9.0	9,015	△ 6.2	358,323	△ 4.7	
	65,789,738	8.4	23,247,041	2.3	2,224,602	△ 6.9	91,261,381	6.4	
南部市場	18	87,856	30.4	26,528	39.8	2,331	54.6	116,715	32.9
		16,597,114	36.6	6,984,184	31.8	657,259	63.5	24,238,557	35.8
	19	100,702	14.6	38,642	45.7	3,735	60.2	143,079	22.6
		18,513,750	11.5	8,858,595	26.8	995,009	51.4	28,367,354	17.0
	20	89,394	△ 11.2	37,000	△ 4.2	3,865	3.5	130,259	△ 9.0
		17,584,806	△ 5.0	9,378,483	5.9	1,123,153	12.9	28,086,441	△ 1.0
21	83,547	△ 6.5	35,240	△ 4.8	3,764	△ 2.6	122,551	△ 5.9	
	16,007,815	△ 9.0	8,513,864	△ 9.2	1,116,002	△ 0.6	25,637,680	△ 8.7	
22	81,408	△ 2.6	31,336	△ 11.1	3,796	0.9	116,540	△ 4.9	
	16,812,345	5.0	8,260,264	△ 3.0	1,139,188	2.1	26,211,797	2.2	
合計	18	366,495	5.6	118,146	△ 2.0	13,612	6.0	498,254	3.7
		77,352,498	11.7	32,819,686	5.4	3,306,553	8.1	113,478,737	9.7
	19	372,366	1.6	126,525	7.1	14,054	3.2	512,945	2.9
		77,224,848	△ 0.2	34,814,863	6.1	3,464,033	4.8	115,503,744	1.8
	20	369,113	△ 0.9	127,436	0.7	14,057	0.0	510,606	△ 0.5
		79,024,796	2.3	33,707,065	△ 3.2	3,641,625	5.1	116,373,486	0.8
21	360,770	△ 2.3	124,463	△ 2.3	13,376	△ 4.8	498,609	△ 2.3	
	76,687,122	△ 3.0	31,247,824	△ 7.3	3,506,013	△ 3.7	111,440,958	△ 4.2	
22	349,503	△ 3.1	112,549	△ 9.6	12,811	△ 4.2	474,863	△ 4.8	
	82,602,083	7.7	31,507,305	0.8	3,363,790	△ 4.1	117,473,178	5.4	

(注) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

青果部 市場別取扱高の推移 (H13~H22)



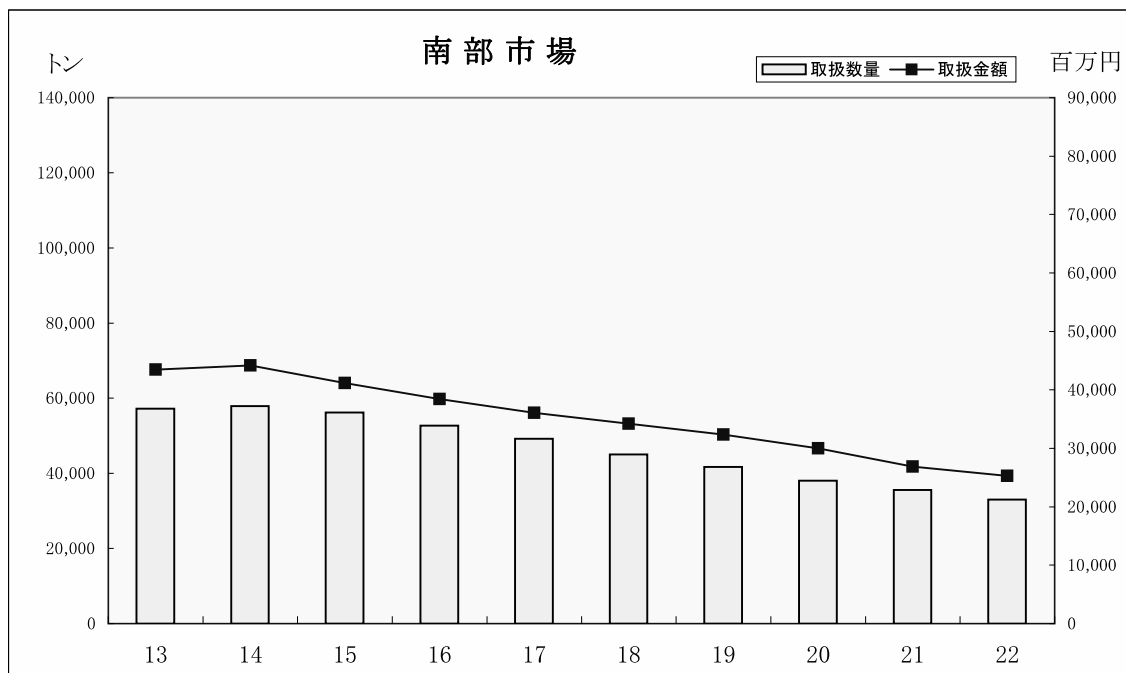
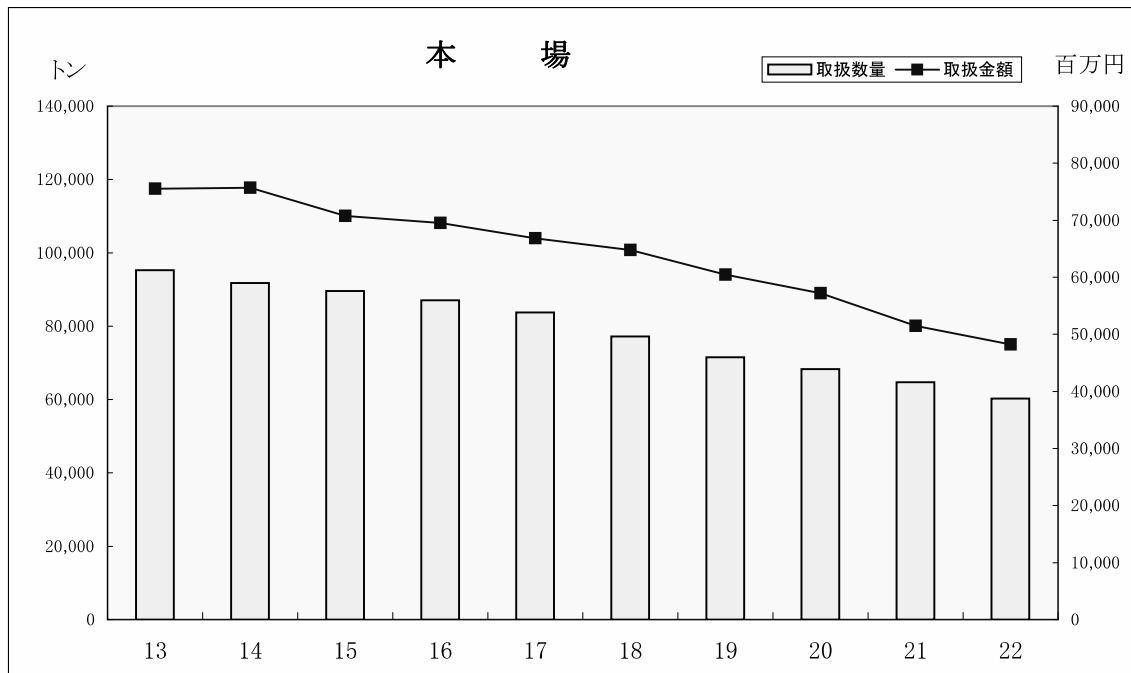
② 水産物部：市場別・種別取扱高推移

[単位 上段：取扱数量＝トン・下段：取扱金額＝千円 対前年次増加率＝％]

市場	年次	生 鮮 品		冷 凍 品		加 工 品		計	
		取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率
本 場	18	30,402	△ 7.8	21,274	△ 12.7	25,492	△ 3.4	77,168	△ 7.8
		24,248,021	△ 2.1	20,299,113	△ 5.8	20,214,803	△ 1.4	64,761,936	△ 3.1
	19	29,016	△ 4.6	18,569	△ 12.7	23,957	△ 6.0	71,542	△ 7.3
		22,878,221	△ 5.6	18,714,512	△ 7.8	18,869,261	△ 6.7	60,461,994	△ 6.6
	20	28,595	△ 1.5	17,131	△ 7.7	22,542	△ 5.9	68,269	△ 4.6
		22,736,315	△ 0.6	16,769,192	△ 10.4	17,705,464	△ 6.2	57,210,971	△ 5.4
21	27,552	△ 3.6	16,183	△ 5.5	20,954	△ 7.0	64,689	△ 5.2	
	20,511,093	△ 9.8	14,968,990	△ 10.7	15,994,092	△ 9.7	51,474,176	△ 10.0	
22	25,963	△ 5.8	13,356	△ 17.5	20,961	0.0	60,279	△ 6.8	
	19,935,827	△ 2.8	13,410,550	△ 10.4	14,903,550	△ 6.8	48,249,926	△ 6.3	
南 部 市 場	18	19,732	△ 6.9	8,631	△ 18.0	16,727	△ 4.6	45,091	△ 8.4
		14,507,433	△ 1.6	8,299,560	△ 13.4	11,415,823	△ 2.8	34,222,815	△ 5.1
	19	19,094	△ 3.2	8,015	△ 7.1	14,619	△ 12.6	41,727	△ 7.5
		13,764,401	△ 5.1	8,053,654	△ 3.0	10,553,016	△ 7.6	32,371,071	△ 5.4
	20	18,164	△ 4.9	7,089	△ 11.5	12,819	△ 12.3	38,073	△ 8.8
		13,146,049	△ 4.5	6,856,473	△ 14.9	10,024,828	△ 5.0	30,027,350	△ 7.2
21	17,649	△ 2.8	6,026	△ 15.0	11,896	△ 7.2	35,570	△ 6.6	
	12,038,856	△ 8.4	5,556,752	△ 19.0	9,263,451	△ 7.6	26,859,059	△ 10.6	
22	15,928	△ 9.8	5,935	△ 1.5	11,149	△ 6.3	33,012	△ 7.2	
	11,248,367	△ 6.6	5,630,207	1.3	8,408,938	△ 9.2	25,287,512	△ 5.9	
合 計	18	50,135	△ 7.4	29,905	△ 14.3	42,219	△ 3.9	122,259	△ 8.0
		38,755,454	△ 1.9	28,598,672	△ 8.1	31,630,626	△ 1.9	98,984,752	△ 3.8
	19	48,110	△ 4.0	26,583	△ 11.1	38,575	△ 8.6	113,269	△ 7.4
		36,642,622	△ 5.5	26,768,166	△ 6.4	29,422,278	△ 7.0	92,833,066	△ 6.2
	20	46,759	△ 2.8	24,221	△ 8.9	35,362	△ 8.3	106,342	△ 6.1
		35,882,364	△ 2.1	23,625,665	△ 11.7	27,730,291	△ 5.8	87,238,321	△ 6.0
21	45,200	△ 3.3	22,209	△ 8.3	32,850	△ 7.1	100,259	△ 5.7	
	32,549,949	△ 9.3	20,525,742	△ 13.1	25,257,543	△ 8.9	78,333,235	△ 10.2	
22	41,890	△ 7.3	19,291	△ 13.1	32,110	△ 2.3	93,291	△ 6.9	
	31,184,193	△ 4.2	19,040,756	△ 7.2	23,312,488	△ 7.7	73,537,438	△ 6.1	

(注) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

水産物部 市場別取扱高の推移 (H13~H22)



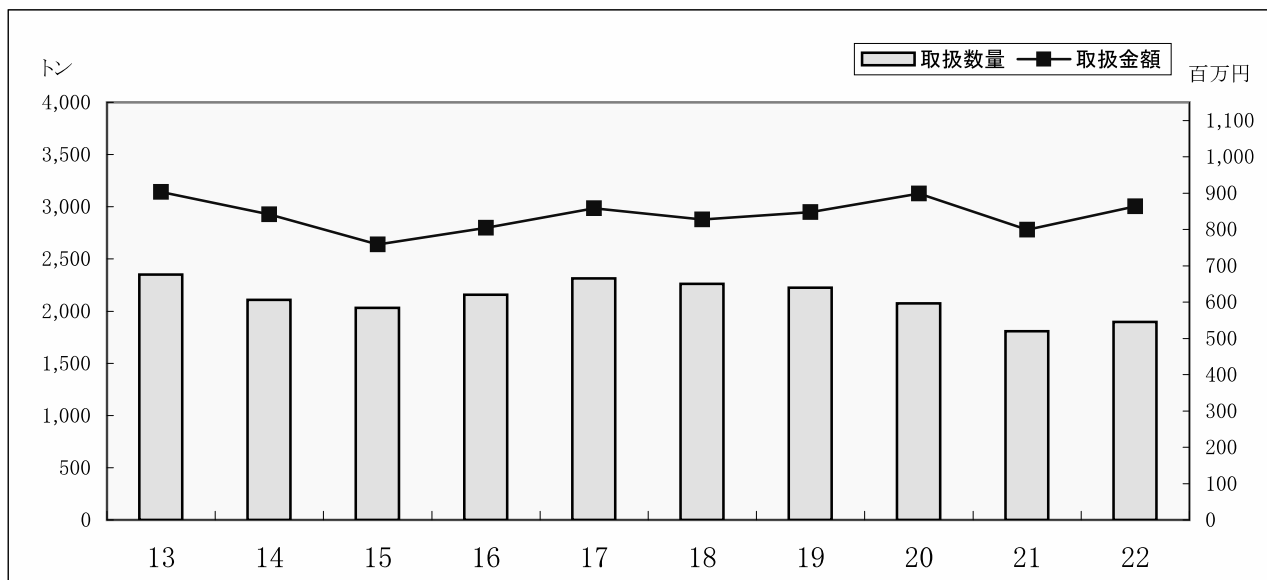
③ 鳥卵部：種別取扱高推移

[単位 上段：取扱数量＝トン・下段：取扱金額＝千円 対前年次増加率＝%]

市場	年次	鳥 肉		鳥 卵		合 計	
		取 扱 高	対前年次 増減率	取 扱 高	対前年次 増減率	取 扱 高	対前年次 増減率
本 場	18	1,608	△ 7.7	653	14.1	2,261	△ 2.3
		674,757	△ 4.4	152,858	0.3	827,614	△ 3.6
	19	1,508	△ 6.2	719	10.0	2,227	△ 1.5
		689,235	2.1	158,602	3.8	847,837	2.4
	20	1,362	△ 9.7	714	△ 0.6	2,076	△ 6.7
		725,185	5.2	173,800	9.6	898,985	6.0
21	1,240	△ 9.0	570	△ 20.2	1,810	△ 12.9	
	667,043	△ 8.0	132,168	△ 24.0	799,211	△ 11.1	
22	1,344	8.4	554	△ 2.8	1,898	4.9	
	728,306	9.2	135,727	2.7	864,033	8.1	

(注) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

鳥卵部 取扱高の推移(H13～H22)



④ 花き部：種別取扱高推移

[単位 上段：取扱数量＝（ ）・下段：取扱金額＝千円 対前年次増加率＝％]

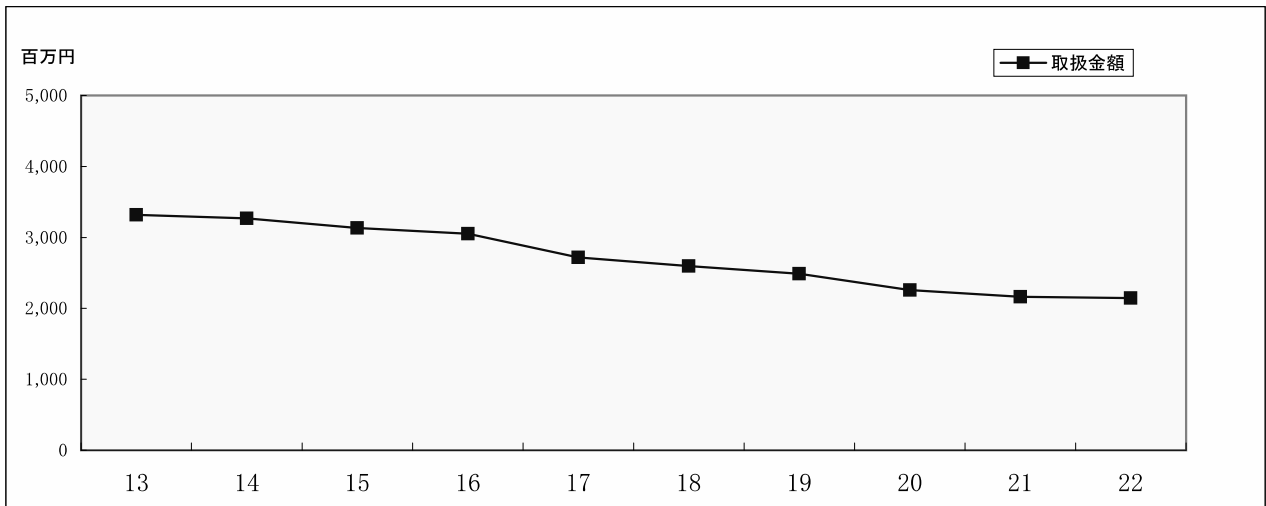
市場	年次	切花 (ケース)		枝物 (束)		鉢物 (鉢)		その他		合計	
		取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率	取扱高	対前年次 増減率
南部 市場	18	383,714	△ 2.0	37,748	△ 2.2	1,675,850	△ 12.1	—	—	—	—
		2,110,750	△ 3.6	195,923	1.2	270,685	△ 14.8	17,341	△ 6.0	2,594,698	△ 4.6
	19	362,012	△ 5.7	38,633	2.3	1,461,757	△ 12.8	—	—	—	—
		2,031,098	△ 3.8	196,567	0.3	245,661	△ 9.2	14,284	△ 17.6	2,487,610	△ 4.1
	20	352,564	△ 2.6	39,469	2.2	1,453,240	△ 0.6	—	—	—	—
		1,840,288	△ 9.4	186,650	△ 5.0	219,074	△ 10.8	14,445	1.1	2,260,456	△ 9.1
21	330,220	△ 6.3	37,847	△ 4.1	1,417,715	△ 2.4	—	—	—	—	
	1,783,912	△ 3.1	165,867	△ 11.1	198,197	△ 9.5	15,350	6.3	2,163,326	△ 4.3	
	308,847	△ 6.5	34,719	△ 8.3	1,308,790	△ 7.7	—	—	—	—	
22	1,773,301	△ 0.6	165,041	△ 0.5	191,695	△ 3.3	17,218	12.2	2,147,255	△ 0.7	

(注1) 1ケース＝100本、1束＝10把＝100本

(注2) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。

(注3) その他は、野菜苗、球根、門松セットなどです。

花き部 取扱高の推移(H13～H22)



⑤ 食肉部：種別取扱高推移

[単位 上段：取扱頭数、()と畜頭数=頭・中段：取扱重量=トン・下段：取扱金額=千円 増加率=%]

市場	年次	牛		豚		その他		合計	
		取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率	取扱高	対前年次増減率
食肉市場	18	15,591	23.0	166,990	△ 0.7	0	0.0	182,581	1.0
		(15,194)	(23.6)	(152,800)	(△ 5.2)	(0)	(0.0)	167,994	(△ 3.1)
		6,769	25.6	12,963	△ 0.0	79	△ 32.7	19,811	7.2
		10,293,092	26.4	5,678,739	△ 1.0	383,153	17.9	16,354,984	15.1
	19	16,371	5.0	144,687	△ 13.4	0	0.0	161,058	△ 11.8
		(15,988)	(5.2)	(133,338)	(△ 12.7)	(0)	(0.0)	149,326	(△ 11.1)
		7,286	7.6	11,274	△ 13.0	84	6.3	18,645	△ 5.9
		10,087,072	△ 2.0	5,126,801	△ 9.7	444,824	16.1	15,658,697	△ 4.3
	20	20,434	24.8	138,050	△ 4.6	0	0.0	158,484	△ 1.6
		(15,989)	(0.0)	(123,905)	(△ 7.1)	(0)	(0.0)	139,894	(△ 6.3)
		8,965	23.0	10,792	△ 4.3	11	△ 87.0	19,768	6.0
		10,672,264	5.8	5,232,073	2.1	458,309	3.0	16,362,645	4.5
21	20,394	△ 0.2	141,953	2.8	0	0.0	162,347	2.4	
	(17,860)	(11.7)	(133,129)	(7.4)	(0)	(0.0)	150,989	(7.9)	
	9,061	1.1	10,931	1.3	0	0.0	19,991	1.1	
	9,937,528	△ 6.9	4,297,791	△ 17.9	493,940	7.8	14,729,258	△ 10.0	
22	18,523	△ 9.2	138,426	△ 2.5	0	0.0	156,949	△ 3.3	
	(17,204)	△ 3.7	(130,868)	(△ 1.7)	(0)	(0.0)	148,072	(△ 1.9)	
	8,312	△ 8.3	10,739	△ 1.8	0	0.0	19,051	△ 4.7	
	9,662,342	△ 2.8	4,457,365	3.7	473,311	△ 4.2	14,593,018	△ 0.9	

(注1) 単位未満は四捨五入したため、内訳の数値を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合があります。
 (注2) その他は、輸入牛肉・子牛・部分肉・副生物など。

食肉部 取扱高の推移(H13~H22)

